



作品名 選

作者 小林 豊 KOBAYASHI Yutaka

寸法 61(幅)×56(奥)×154(高さ)cm

展示場所 長久手町役場庁舎

■作家歴

1955年福島県生まれ

愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了
中日賞(奨励賞) 中部国展(中部国画賞)
現在 国画会会員、小林美術研究所主宰

■コメント

形の内側で確かな存在を感じさせるエネルギーを表現できないものだろうか。それは生命の輝きに関係があるのではないか。容易に解き明かすことはできないが、何か少しでも手がかりをつかみたいと願っている。



作品名 想

作者 太田 昌男 OTA Masao

寸法 53(幅)×70(奥)×126(高さ)cm

展示場所 長久手町役場庁舎



作品名 情(智・情・愛)

作者 高橋 洋 TAKAHASHI You

寸法 66(幅)×63(奥)×175(高さ)cm

展示場所 中央図書館



作品名 **闘士**
Fighter
作者 井上 雅之 INOUE Masayuki
寸法 60(幅)×80(奥)×100(高さ)cm
展示場所 長久手町消防庁舎

■作家歴
1957滋賀県生まれ
愛知県立芸術大学大学院研修生修了
国展出品
現在 愛知県立芸術大学非常勤講師

■コメント
作品のテーマと置く場所のイメージが合致することは私自身の希望であります。今回の休息する「闘士」像の消防署前庭への設置は、まさにその希望がかなえられた形となりました。災害もなく、闘士(たち)が静かに座していられる日々が続きますように、またいつかこの像がファイヤーマンシップの象徴となりますように、作者の「願い」と「誇り」を込めました。



作品名 **華**
Flower
作者 櫻井 真理 SAKURAI Makoto
寸法 58(幅)×40(奥)×151(高さ)cm
展示場所 高齢者生きがいセンター

■作家歴
1962愛知県生まれ
愛知県立芸術大学大学院修了
卒業制作(桑原賞)
日彫展(東海テレビ賞)(中日賞)
日展連続入選
県文連美術展(奨励賞)(美術展賞)
現在 日本彫刻会会員 日展会友

■コメント
作品の台座がいすになっているので、座る人が頭などをぶつけないように、また、台座全体の形(凸形)と対照にして広がりを出すために手を上げたポーズにしました。彫刻は、前から見るだけのものではないので後から、斜めからといろいろな角度から眺めてくださればと思います。



作品名 **風に...**
作者 森 克彦 MORI Katsuhiko
寸法 60(幅)×30(奥)×130(高さ)cm
展示場所 農業環境改善センター

■作家歴
1956愛知県生まれ
愛知県立芸術大学大学院修了
名古屋市博物館のほか、三重、一宮、東京などで展覧会開催

■コメント
全体の流れとフォルムに重点を置いた作品です。



作品名 **勇士達の顔**
Yushi-Tachino-Kao
作者 宮本 治 MIYAMOTO Osamu
寸法 80(幅)×70(奥)×180(高さ)cm
展示場所 後山公園

■作家歴
1955大阪生まれ
愛知県立芸術大学大学院研修科修了
東京都立美術館、名古屋、豊橋で個展多数
第46回三重県展(最優秀賞)
「Asian Art Now」ラスベガス市立美術館(優秀賞)

■コメント
この作品は、私が県立芸術大学在学中から卒業までの間につくったものです。そのとき、同じように彫刻している仲間がいました。男も女も含めて、一心に仕事をしている姿を、女の人の体を借りて、意志の強さを表現しようと思いました。まずモデルさんを見ながら三分の一ぐらいの原型をねんどでつくり、それを石こうに置き換え、その後、三倍の大きさに拡大する形で石を彫り進めて制作しました。



作品名 **静かな時**
Silent Time
作者 加納 秀美 KANO Hidemi
寸法 60(幅)×50(奥)×165(高さ)cm
展示場所 段の上公園

■作家歴
現在 国画会会員

■コメント
この頃、一人である・一人になることを強く感じ、それがだんだん心地よく感じる様になった。アトリエで制作している時、あたりが静まりかえった時、より心地よく感じていた。その時の己の気持ちと自然の造形との関わりを求めてできた作品です。



作品名 **ライオンゲート**
寸法 100(幅)×40(奥)×60(高さ)cm
展示場所 石田橋

■コメント
1992年10月に長久手町はワテルロー市(ベルギー)と姉妹都市提携を結びました。石田橋の両端にあるライオンは、ワテルロー古戦場にある幅4.5m、奥行2.1m、高さ4.45mのライオンを縮小したものです。
ワテルローのライオンは、戦場に残された武器を鋳造しなおして作られたもので、作家はレイ・ヴァン・ゲール(ベルギー、メッヘレン市)です。28トンもあるライオンは、リエージュのコリクル製鉄会社で作られ、蒸気船でミュズ川をのぼり、陸路は20頭だての荷馬車にひかれてワテルロー古戦場に運ばれました。そして、ライオンを乗せるために丘の中心にレンガの柱が埋め込まれ、その上に4.5mの高さの基礎石、更にその上に高さ7mの台石が置かれました。ライオンは、右足を聖なる連合ヨーロッパを象徴する地球儀の上に載せ、半日の戦いで約5万人もの負傷兵と戦死兵を出した戦場を睨んでいます。



作品名 **Abstract Harmony**

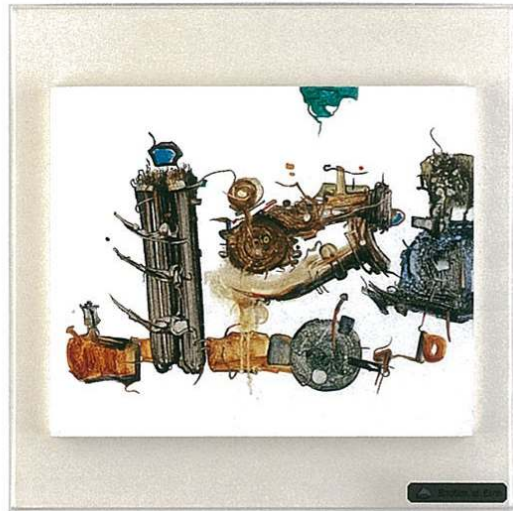
作者 G.S.カビール G.S.KABIR

寸法 106(縦)×76(横)cm

展示場所 文化の家

■作家歴

1960バングラディッシュ生まれ
ダッカ大学院美術修士号取得
91文部省国費留学生として来日
愛知県立芸術大学大学院修士号取得
バングラディッシュ、大阪、大分、神奈川にて個展開催
現在 東京芸術大学大学院美術研究科研究生



作品名 **Emotion Of Earth**

寸法 50(縦)×50(横)cm

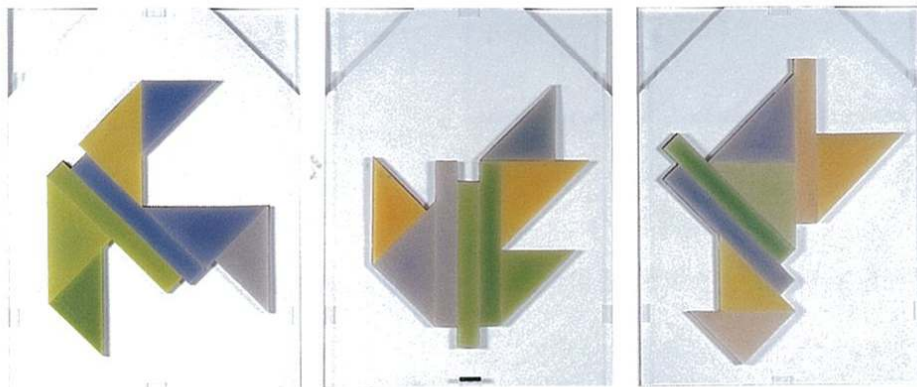
展示場所 文化の家



作品名 **Unknown Rhythm**

寸法 209(縦)×118(横)cm

展示場所 文化の家



作品名 **composition**

作者 藪内 速人 YABUUCHI Hayato

寸法 86(縦)×65(横)cm 3点

展示場所 文化の家

■作家歴

1958神奈川県高松市生まれ
愛知県立芸術大学油画専攻終了
83~92私立高校講師
94~96愛知県立芸術大学大学院(デザイン)
名古屋で個展多数

■コメント

パラフィンワックスという不安定ではあるがとても魅力的な素材を使った作品。大小2種類の三角形と長方形の取り合わせで様々な表情を創り出す。発色は奥へ引き込んでいく不思議な柔らかさがある。見る人の心を和ませるものだと思う。



作品名 楽園
RAKUEN

作者 浅井 金万 ASAI Kinman

寸法 216(縦)×171(横)cm

展示場所 文化の家

■作家歴

1919年生まれ

日展(入選)

院展(入選22回)

院友推挙、特待推挙、無鑑査4回

木曜会主催

地域文化功労者文部大臣表彰

■コメント

花咲き乱れ、鳥が啼き、蝶が舞う。そんな夢の世界を訪れたい。



作品名 朝乃海
ASANOUMI

寸法 76(縦)×62(横)cm

展示場所 長久手町消防庁舎

■コメント

白砂青松、白波踊る朝の海。いつまでもかわらない風景に時を忘れて。



作品名 残雪
ZANSETSU

寸法 72(縦)×92(横)cm

展示場所 長久手町消防庁舎

■コメント

30数年前、初めて新穂高に足を運んだ。厳しい冬に耐え、春を待ちわびたかのように一度に色めく山。そんな山に魅せられて、毎年雪解けとともに訪れていた。



作品名 ぼたん
BOTAN

寸法 40(縦)×53(横)cm

展示場所 役場西庁舎

■コメント

春になると庭にいろいろな牡丹が咲きました。それらをスケッチするのが、私の楽しみでした。その中でひととき鮮やかな白さが私の心を引きつけました。この白牡丹の優美な気高さを描いてみたいと思いました。



作品名 林律

RINRITSU

寸法 140(縦)×73(横)cm

展示場所 長久手町役場庁舎

■コメント

初春、雪が溶けて清澄な流れとなり、小鳥たちが集い、フキノトウが顔を出す。冬に耐えてきた裸木がそれぞれのたたずまいで、春への力を内包しつつ息づいている。ピーンと張り詰めた大気の中から、かすかに春の旋律が聞こえてくる。—そんな楽しさを描きたいと思いました。



作品名 朝風

ASAKAZE

寸法 145(縦)×72(横)cm

展示場所 長久手町立南中学校

■コメント

私は若い頃からチャボや鶏を飼っており、好んで描いてきました。椿も私の好きな画材の一つです。



作品名 晨(あした)

ASHITA

寸法 100(縦)×100(横)cm

展示場所 中央図書館

■コメント

悠久の時を思わせる山桜の老木に止まった尾長鶏。華麗な雄姿に反してその育成に物悲しさを覚えるのは私だけでしょうか。



作品名 **そのまた向こうは…**
Sonomatamukou wa…

作者 長谷川 淳 HASEGAWA Jun

寸法 90(縦)×140(横) cm

展示場所 長湫西保育園

■作家歴

1942生まれ

武蔵野美術短期大学卒業

現在 愛知県立芸術大学美術学部

デザイン・工芸科教授

音楽関係の書籍・ポスターのデザイン、ガラス器のイラストレーションなどを制作している。

■コメント

地球は丸い、と頭の中ではわかっていてもいつも思うのです。そのまま向こうに何がある?…

人によっては、それは開かれた窓のようであったり、手のとどかないあきらめの世界であったりもします。いずれにしても、そこには未知への期待と不安とそして少々の恐怖があるものです。地平線は現実と未来が交わる一本の線なのでしょうか。



作品名 **Bird Sanctuary**
(想いでの中で...)

寸法 140(縦)×100(横) cm

展示場所 保健センター

■コメント

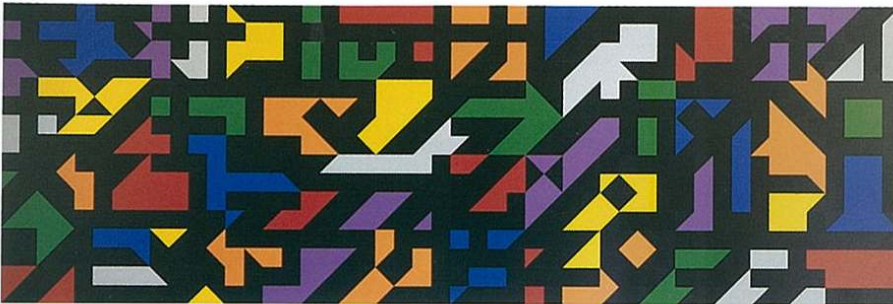
鳥の聖域、それは地球だ。鳥は人とは違った地図で地球を見ているのだろう。



作品名 **Bird Sanctuary**
(森の詩...)

寸法 70(縦)×50(横) cm

展示場所 保健センター



作品名 **イロイロイロハ**

作者 佐藤 直樹 SATO Naoki

寸法 120(縦)×360(横) cm

展示場所 長久手町立北小学校

■作家歴

1968埼玉県生まれ 愛知県立芸術大学美術研究科デザイン専攻修了

長久手町「N-バス」デザイン計画担当

現在 愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科助手

■コメント

日本語の音を48文字まで網羅したイロハ歌は日本語教育や表現の文字通り「イロハ」といえます。そのイロハ歌をモチーフに、カラフルでリズムカルな画面構成を試みたものです。



作品名 **Shiny Sunday**
 作者 尾崎 仁美 OZAKI Hitomi
 寸法 60(縦)×80(横) cm
 展示場所 保健センター

■作家歴

1970愛知県生まれ
 愛知県立芸術大学大学院卒業
 ART BOX大賞展(入選)
 第5回グラフィックアート「3,3㎡展」(入選)
 ギャラリーエフ

NEW YEAR EXHIBITIONに参加
 「美しい絵皿展 100 vs 100」、「200人のこ
 だわり温度計展」、「三角クロック展」、「開運
 銀座だるま祭」に参加

■コメント

人の生活や普段見なれた街の風景のな
 かには二面性がある。ONとOFF、weekday
 とweekendのように、対比するものを2枚の
 中に表現しました。



作品名 **Monday Morning**
 寸法 60(縦)×80(横) cm
 展示場所 保健センター



作品名 **Father and Son**
 作者 佐々木 悟郎 SASAKI Goro
 寸法 40(縦)×50(横) cm
 展示場所 保健センター

■作家歴

1956岐阜県生まれ
 愛知県立芸術大学デザイン科卒業
 講談社出版文化さしえ賞
 名古屋市イメージポスター(特選)
 山田詠美「放課後のキーノート」、
 浅田次郎「月のしずく」書籍カバー制作
 サントリーワイン「レゼルブ」ラベルイラスト制作
 現在 愛知県立大学非常勤講師

■コメント

サーフィンを終えた父と息子が、ボードを脇に
 かかえて黄昏時の海を見ているシーンです。
 手前には(たぶんどっヂの)赤いトラック。場
 所はマリブあたりでしょうか。



作品名 **Harlem Night**
 寸法 44(縦)×36(横) cm
 展示場所 保健センター



作品名 **花 Hana**
 寸法 50(縦)×50(横) cm
 作者 白木 彰 SHIRAKI Akira
 展示場所 役場西庁舎

■コメント

虹を吐いて開かんとする牡丹かな 蕪村
 私はこの句が好きだ。花卉の一枚一枚が微動し、「さあ、
 今から始めよう。」と、気合いを入れるかのようである。
 牡は雄、丹は赤。男の赤、という名の中に迷いはない。
 花王、花神の誕生の瞬間である。虹を吐いて、どのよ
 うな牡丹が咲くのか、お楽しみは、これからである。
 牡丹は、昔、キンボウゲ科とされていた。キンボウゲ
 といえは、可憐さと毒を有する小悪魔的な花である。
 まっすぐな牡丹も好きなのだが、実のところ私は、キンボ
 ウゲのような 毒を隠している花にも魅力を感じている。
 浮気性なのかな……
 もちろん、女^{メンドウ}花も大好きである。



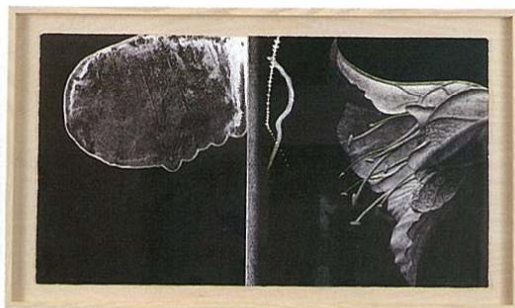
作品名 **Leaves**
 作者 倉地 比沙支 KURACHI Hisashi
 寸法 45(縦)×38(横)cm
 展示場所 保健センター

■作家歴
 1961名古屋市生まれ
 愛知県立芸術大学大学院油画専攻修了
 現在 愛知県立芸術大学美術学部油画専攻
 版画研究室講師

■コメント
 2極性の世界は、去年から始めているDualifeシリーズのテーマである。事実は視点が変わることで様相を変える。人の理念のもとに社会が作り上げられたとしたら、見方の違いによって予期せぬ社会を読み取ることができるだろう。この差異が、さまざまなコミュニケーションを生むが、同時に問題も生じさせている。
 花や実を描いているのは、その有機的なフォルムに魅せられたわけではなく、ポジティブなイメージを感じさせるからである。それを描くことで、その裏側にあるネガティブな存在が浮かび上がってくるのではないか。
 タイで生活し、花や実がナイフで刺せばギャーと叫ぶようなエネルギーを持っていることを痛感した。日本での、花に対して持つはなやかさや優雅さのイメージとは対照的である。



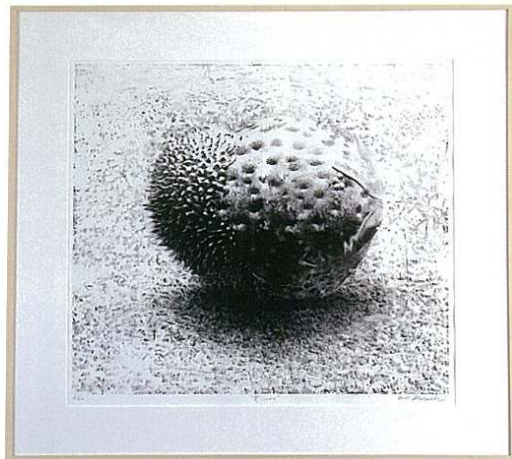
作品名 **ねずみ花**
 寸法 16.2(縦)×17.2(横)cm
 展示場所 保健センター



作品名 **Flower and it 99-1**
 寸法 49.2(縦)×88.8(横)cm
 展示場所 保健センター



作品名 **fruit and it**
 寸法 65(縦)×58.5(横)cm
 展示場所 保健センター

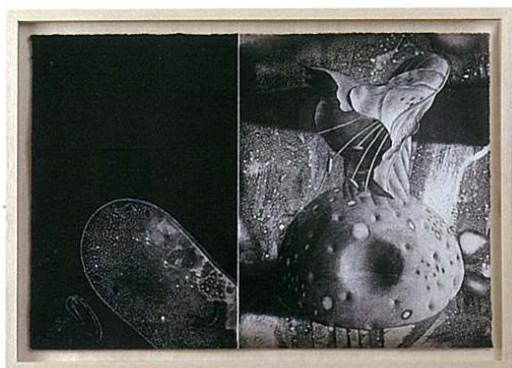


作品名 実

作者 倉地 比沙支 KURACHI Hisashi

寸法 69.5(縦)×79.2(横)cm

展示場所 保健センター



作品名 果実花ー1

寸法 41(縦)×59.5(横)cm

展示場所 保健センター



作品名 兜の夢ー1

寸法 84.5(縦)×84.5(横)cm

展示場所 保健センター



作品名 星の実

寸法 35.2(縦)×40(横)cm

展示場所 保健センター



作品名 長久手合戦図屏風
作者 加藤 厚 KATO Atsushi
寸法 170(縦)×243(横) cm
展示場所 役場西庁舎

■作家歴

日本美術院 院友 名古屋本丸御殿修復模写従事
 現在 愛知県立芸術大学日本画非常勤講師

■コメント

この作品は学生の時に描いたもので、長久手の南から北を見、合戦のいろいろな様子を描いたものです。当時はまだ血の池もあり、仏ヶ根の森の奥に行くと、竹やぶから落ち武者が出てきそうな、少し怖い思いもしました。



作品名 メキシコの印象 (花売り)
作者 伊藤 高義 ITO Takayoshi
寸法 164(縦)×130(横) cm
展示場所 長久手町役場庁舎

■作家歴

1926長久手町生まれ
 メキシコ国立芸術院招待で「私のメキシコ」展開催
 メキシコ水彩画美術館 国際水彩画ビエンナーレ招待出品
 現在 二科会評議員 水彩協会代表委員

■コメント

初めてのメキシコ旅行の印象を描いたものです。市場に集まる人々の力強い生命感と、白い色に輝く教会造形美が私の心を魅了しました。この作品を含めて、二科展に100号サイズの作品を5点出品して、二科会友に推荐されました。私にとっては記念的な作品の一つです。



作品名 虹
寸法 100(縦)×230(横) cm
展示場所 長久手町立長久手中学校

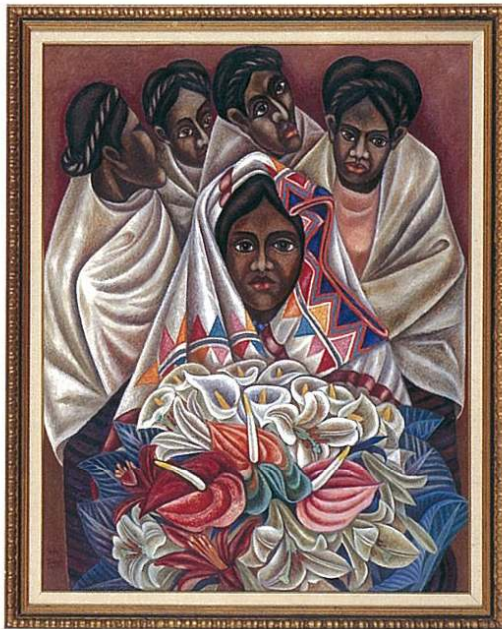


作品名 虹 (壁画)
寸法 250(縦)×500(横) cm
展示場所 長久手町立長久手中学校

■コメント

壁面をしつこい仕上げにしてもらい、私の師北川民治直伝のエッグテンペラの技法で描いた壁画です。この絵には、中学生の学ぶ姿、科学や芸術、体育が若者の未来の「虹」の架け橋になる、という思いを盛りこみました。絵中央に理想を指差す校長先生、持っている本には校訓が書いてあります。絵右下部には生徒たちの苦悩の姿、人物後方にある多くの手は希求する姿の象徴です。メキシコルネッサンスの壁画運動から、私は人々にその建物の理想を描くものだという考えを学び、初めて壁画に取り組みました。

なお、「虹」という絵はこの壁画の下絵です。



作品名 花をささげるインディオ

寸法 115(縦)×89(横)cm

展示場所 役場西庁舎

■コメント

メキシコの南部オハハカ州の山の村の部落を取材した時の作品です。祭りで花束を持って教会に集まった女性達の姿に、素朴な人間の美しさを見た感動は今も新鮮な印象で心に深く刻まれています。写生的に対象を写し描くだけではなく、花や人物に造形的な構成を強く意識した作品です。



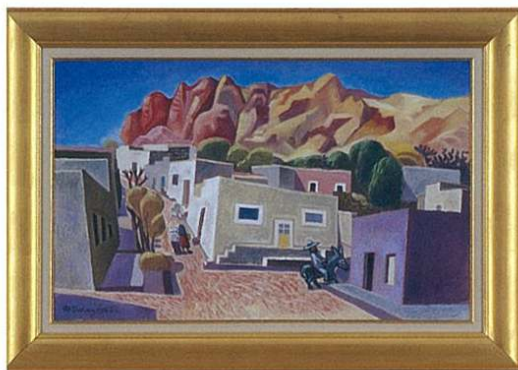
作品名 マンゴーの木の下で

寸法 F100

展示場所 長久手町立東小学校

■コメント

長い長い車の旅でたどりついたウワソロの村では、大きなマンゴーの木が家々の庭や村の広場にそびえたち、その木陰には昼寝をする村人や七面鳥、牛が集っていた。なんと平和で静かな風景だろうか？この風景はどこかで見た原風景、、、そうだ、これは私の育った戦前の長久手の農村風景に似ているのだ、だから私の心の中に遠い記憶がよみがえって、熱い思いがこみあげてきたのだ、、、。その強い感動がこの絵を描く力になりました。



作品名 岩山のむら (メキシコ)

寸法 F25

展示場所 中央図書館

■コメント

メキシコの北部、赤い岩山に囲まれた鉦山の町ソンプレレッテは、しばしばアメリカ西部劇映画の撮影地として登場します。初めてこの町を訪れた時、西部劇好きの私はすっかりこころになってしまいました。この作品は、その後何度も写生に訪れた町はずれの風景の一つです。青く澄みきった空のもと、赤い岩山と白い民家と人々の姿には、時代と時間が止まったようなロマンがありました。なにかにつけ慌しさに忙殺されそうになる日常生活の昨今、こうした風景は心を癒してくれる、私の好きなものの一つです。



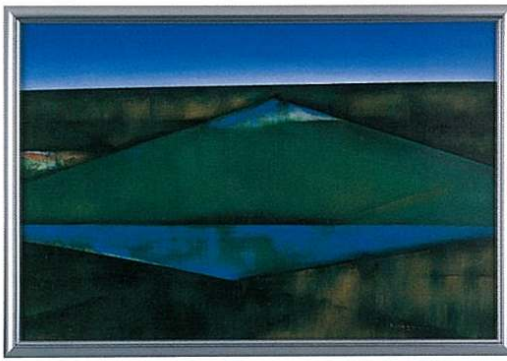
作品名 メキシコのマリア

寸法 173(縦)×143(横)cm

展示場所 長久手町消防庁舎

■コメント

メキシコでは、子連れで物乞いをする母親を「マリア」と呼ぶことがあります。メキシコ南部グアテマラ国境に近いチャパス州の奥地チャムラ村を旅したおり、協会前で広場で昼寝をしていた私たちに近づいてきた母子がいました。その姿に「メキシコのマリア」と呼ばれるにふさわしい、たくましさの中の慈愛に満ちた美しさを見て、感銘を深めて描いた作品です。



作品名 **丘のかたち**
作者 加賀美 勲 KAGAMI Isao
寸法 P80
展示場所 中央図書館



作品名 **群駿**
作者 加藤 助八 KATO Sukehachi
寸法 100号P
展示場所 中央図書館

■作家歴
1928西尾市生まれ
愛知学芸大学美術科卒業
箱根彫刻の森美術館作品買い上げ
現在 春陽会会員
朝日カルチャーセンター講師

■コメント
北の大地を蹄の音を地響きさせながら疾走する馬を動的な構成で表現した作品。



作品名 **SMALL LAND**
作者 速水 敦 HAYAMI Atsushi
寸法 230(縦)×230(横)cm
展示場所 長久手町役場庁舎



作品名 **長久手の丘**
The Nagakute Hill
作者 久保田 裕 KUBOTA Yutaka
寸法 F130
展示場所 長久手町役場庁舎

■作家歴
1946広島市生まれ
愛知県立芸術大学大学院卒業
安井賞展出品
現在 愛知県立芸術大学油画科教授
国画会会員

■コメント
愛知県立芸術大学のキャンパスから西を眺めると、いくつかの稜線の向こうに市街地が見える。私は広い空を持つこの丘陵地を製作テーマのひとつにしており、徐々に長久手町に都会化が及んで、自然と都会が融合する風景を見続けてきた。横たわる人物は休息する私自身で、形態を強めるために単純化を試みている。この絵を制作して10年経つが、自然は変化しつつも、心を癒してくれる存在であることに変わりはない。



作品名 **嫁ぐ日**
Wedding Day

作者 藤山 高德 FUJIYAMA Takanari

寸法 F50

展示場所 中央図書館

■作家歴

フランス・ル・サロン会員

各地で個展開催

■コメント

人生の大きな節目である結婚の喜びを表現しました。教え子の結婚式や、フランス等の教会前で結婚を喜びあう美しい表情に感動して画きました。



作品名 **みんな友だち**
We are all friends

寸法 F50

展示場所 長久手町立西小学校

■コメント

これはルーブル美術館のバラ園の周りで、仲よく楽しく過ごしている若者を画いたものです。世界の国々の人達と仲よく、協力し合って、活躍していく人に成長してくれることを願って画きました。



作品名 **ウサギ I**

作者 増田 直人 MASUDA Naoto

寸法 116.7(縦)×116.7(横)cm

展示場所 保健センター

■作家歴

愛知県立芸術大学美術学部卒業

同大学院卒業

卒業制作(桑原賞)

上野の森美術館(大賞)

現在 愛知県立芸術大学勤務

国画会準会員

■コメント

現代の多様化する 情報社会において
我々が 好むと好まざるにかかわらず
一方的に吹き付ける 時代のかぜは
ややもすると 自分自身を見失いそうにする

日々 その直面する事柄に どう対処するか
ひとつひとつを 見きわめ判断することの大切さを 痛感する

今日に生きる一人の人間として
人々の未来に向けての
自由と幸せを 純粋に考え表現する



作品名 **ウサギ II**

寸法 116.7(縦)×116.7(横)cm

展示場所 保健センター



作品名 歩く眼
Walking eyes

作者 設楽 知昭 SHITARA Tomoaki

寸法 152.5(縦)×98.5(横) cm

展示場所 中央図書館

■作家歴

1955北海道生まれ

愛知県立芸術大学大学院卒業

石田財団(芸術奨励賞)

現在 愛知県立芸術大学助教授

■コメント

私たちは見るために生まれて来たといってもよいと思います。あっちこっちを移動し、一生の間、色々なものを見るために。それは、ただ見たいからというしかありません。見るために樹上から降りた好奇心の強いサルが私たち、というと怒り出したり不安になったりする人もいかもしれません。

でも、私にはそう考えることが神様でも動物でもないヒトの存在として、自然に思えます。

「歩く眼」という作品は、私たちの棲む世界と、この眼との間にスクリーンのように存在します。ですから、この作品は、世界を映してもいるし、また、私自身の視覚をも同時に映しています。

この作品は、2点とも壁に設置した大きな鏡に自家製の絵の具で描き、その後、雁皮紙(和紙)に転写したものです。鏡、絵の具、私自身、私のまわりの空間、私の視覚、そういったモノ、コトが紙に転写され、その痕跡を残します。それは、物でも観念でもない、絵画の存在として、ちょうど私の視覚の存在と重なるようにあればよいと考えます。



作品名 歩く眼
Walking eyes

寸法 150.7(縦)×95.5(横) cm

展示場所 中央図書館



作品名 なにかしようよ
Will you play with me?

作者 大石 巖徳 OISHI Gentoku

寸法 126×158cm

展示場所 役場西庁舎

■作家歴

1953長崎県生まれ

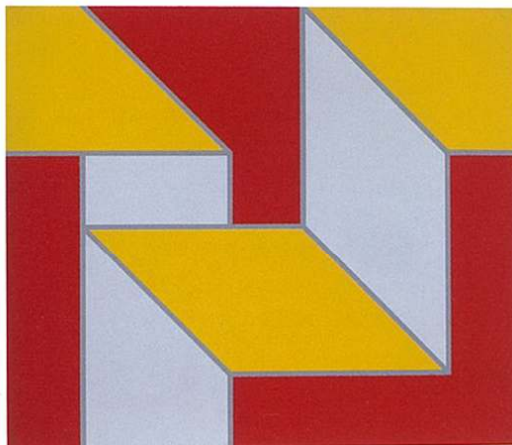
愛知県立芸術大学油画卒業

日輝展(新人賞)(金賞)

現在 日輝会会友

■コメント

芸大を卒業して2回目の個展の作品。モデルは小学校3年生の女の子で、当時、絵画教室の生徒だった。今ではもう25才の女性である。誰かと遊びたくて、たいくつしている無邪気な女の子を描きたかった。



作品名 構成

作者 林 英光 HAYASHI Hideaki

寸法 240(縦)×120(横) cm

展示場所 中央図書館



作品名 庭一隅
作者 赤塚 一三 AKATSUKA Kazumi
寸法 45.5(縦)×38(横)cm
展示場所 文化の家

■作家歴

1956岐阜市生まれ
愛知県立芸術大学大学院修了
前田寛治大賞展(東京高島屋、倉吉美術館)
愛知文化振興局よりフランスに滞在
東京、パリ、名古屋にて個展

■コメント

絵を描くにあたり、萎縮のない伸びやかな緊張感があり、理屈を超えて気持ちが透明になっているかが大切です。私は誰が描いても「絵らしい」富士山や美人等でなく、身近な何の変哲もないものを対象にしていますが、そこに不思議な、見ていて飽くことのない「何か」が入ってほしいと思い、描きました。



作品名 花のリズム
寸法 27.5(縦)×45.5(横)cm
展示場所 文化の家

■コメント

平面上での携帯の追求のために身近な物を選び構成しました。



作品名 欄
寸法 14(縦)×8(横)cm
展示場所 文化の家

■コメント

花の持つ生命感と形の面白さから構成した作品。



作品名 卓上
寸法 36(縦)×45.5(横)cm
展示場所 文化の家

■コメント

在仏中の習作、色と質の関係を重点的に試みた作品。



作品名 **ベネチアの窓辺にて**
 作者 佐光 亜紀子 SAKO Akiko
 寸法 F100
 展示場所 中央図書館

■作家歴

ギャラリー・クリストフ(パリ)、台北などで個展、
 日本橋三越特選画廊にて個展
 新美術展(文部大臣賞)
 現在 仏・サロン・ドートヌメ会員
 新美術協会理事

■コメント

水の都ベネチアは哀しい程に美しく、静かで、いつも新しい感動を与えてくれる街である。朝陽の登るころ、ベネチアは薄紫に輝く。窓辺には、中世のイタリアを支配したメジチ家の紋章である白百合が微笑む。陽の光は金色に輝き、きらきらと水面を照らす。

ベネチアの旅の思い出と花とをダブルイメージで表現した心象風景である。



作品名 **よろこびの詩(うた)**
 寸法 F100
 展示場所 文化の家

■コメント

たくさんの私の絵の中で、この絵は最も抽象表現に近い作品のひとつです。古代からの祈りの心を、できるだけ暖かな色で表現してみました。天使がうたい、花は咲き、その花から鳥が産れる。鳥は倅せを運ぶ使者。愛するものたちのもとへ。

絵画とは、あくまでも見る人の自由です。想像の翼を広げて、美の世界に遊んで欲しいと思います。



作品名 **青春の旅立ち**
 作者 **山口 公男** YAMAGUCHI Kimio
 寸法 93(縦)×75(横)cm
 展示場所 文化の家



作品名 **雪の池**
 作者 **小林 研三** KOBAYASHI Kenzo
 寸法 F20
 展示場所 長久手町立南中学校



作品名 **ペルセポリス**
作者 岡本 信治 OKAMOTO Shinji
寸法 180(縦)×120(横)cm
展示場所 長久手町立長久手中学校



作品名 **芳樹**
作者 松下 勝正 MATSUSHITA Katsumasa
寸法 66(縦)×92(横)cm
展示場所 長久手町立南中学校



作品名 **北フランスの海港**
作者 佐伯 与吉朗 SAEKI Yokichiro
寸法 F30
展示場所 長久手町立南小学校



作品名 **室内**
作者 松田 環 MATSUDA Tamaki
寸法 F130
展示場所 長久手浄化センター

■作家歴
1949北海道弟子屈生まれ
愛知県立芸術大学大学院修了
日洋展(日洋賞) 日展(中日賞)
名古屋、東京、大阪にて個展多数



作品名 曙光
 The Dawn
作者 加藤 令吉 KATO Reikichi
寸法 486(縦)×700(横)cm
展示場所 枳ヶ池体育館

■作家歴

日展 特選 入選3回 無鑑査1回
 中日賞中日国際陶芸展(文部大臣奨励賞)(外務大臣賞)
 イタリア・ファエンツァコンクール 招待出品 3回
 朝日陶芸展79賞
 中部読売美術展 (大賞)(美術賞2回)(知事賞2回)

■コメント

あらゆる可能性を秘めた街「長久手」と、「舞うトンボ」・「た
 たずむ鳥」をモチーフとし、「生」と「動」を表現し、現在から未
 来への展望をイメージして制作した。



作品名 「漂」
作者 河本 太郎 KAWAMOTO Taro
寸法 170(縦)×210(横)cm
展示場所 枳ヶ池体育館

■作家歴

愛知県立芸術大学(彫刻)卒業
 中日大賞、朝日陶芸賞
 読売美術展・ファエンツァ国際陶芸展招待出品
 中日国際陶芸展推薦招待出品、朝日陶芸
 展受賞作家選抜展出品

■コメント

水辺に漂う鳥たちは、慰いを求めている
 ようであり、スポーツを通じ、心と心の集え
 る場所。



作品名 「翔」
寸法 170(縦)×210(横)cm
展示場所 枳ヶ池体育館



作品名 飛翔
作者 真柄 乃布彦 MAGARA Nobuhiko
寸法 2,500(縦)×6,510(横) cm
展示場所 役場西庁舎

■作家歴
 1936瀬戸市生まれ 愛知県立瀬戸窯業高校工芸科卒業
 日本全国各地で個展、巡回展多数

■コメント
 大きく翔たける、夢のある町にと広く大きい海原から力強く華麗に飛び立つ姿の群鳥をイメージしました。



作品名 家康軍議の図
 IEYASUGUNGINOZU
作者 夢童 由里子 MUDO Yuriko
寸法 300(縦)×400(横) cm
展示場所 色金山歴史公園

■作家歴
 京都市出身 景観造形作家、アートプロデューサー
 京都市立芸術大学卒業
 都市文化奨励賞 ポメリー中部文化賞
 著書「尾張徳川をんなの群像」(中日新聞連載)
 現在 日本道路公園ハイウェイ懇談会委員、
 愛知県あいち観光振興協議会委員 他

■コメント
 国の史跡に指定されている色金山の床机石の上で家康をはじめ武将たちが軍議を開いている様子です。後方には家康の馬標(うまじるし)である金扇が輝いています。本作品の左手には同じく「家康隊進軍の図」が設置されています。



作品名 小牧・長久手合戦の図
寸法 185(縦)×762(横) cm
展示場所 スポーツの杜



作品名 **「溪流」灰釉鉢**
作者 加藤 舜陶 KATO Shunto
寸法 40(幅)×42(奥)×20(高さ)cm
展示場所 長久手町役場庁舎

■作家歴

1916生まれ
天皇陛下御使用食器御用命
全国陶芸展(文部大臣賞)
日展(内閣総理大臣賞)
現在 日展評議員

■コメント

灰釉は木の灰を主体に長石(1200℃以上の高熱で溶解する石)を混入して調合する。作者の好みに応じて灰と長石の分量は多少異なる。ガラス状の透明感が美しい。釉葉の流れる特徴を利用して動的なデザインを構成する。溪谷の清水が緑陰に映えて輝く意を表現した。



作品名 **敦煌**
作者 池田 満寿男 IKEDA Masuo
寸法 26(幅)×26(奥)×46.5(高さ)cm
展示場所 中央図書館



作品名 **残っている話**
作者 村瀬 敏子 MURASE Toshiko
寸法 27(幅)×27(奥)×57(高さ)cm
展示場所 長久手町立東小学校



作品名 **球形の地平**
Abohe the global horizon

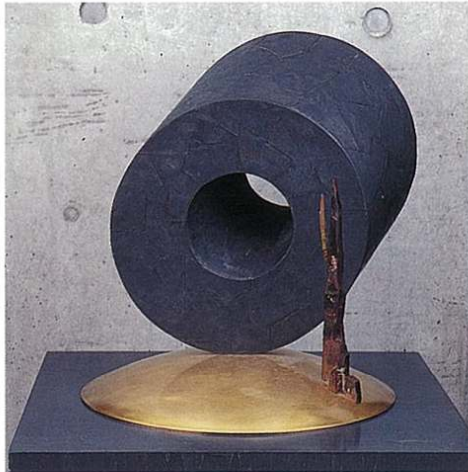
作者 望月 菊磨 MOCHIZUKI Kikuma
寸法 30(幅)×30(奥)×30(高さ)cm
展示場所 文化の家

■作家歴

1945福岡県生まれ
東京芸術大学美術学部研究科修了
終了制作(サロンド・ブランタン賞)
現代日本美術展 日本国際美術展(入選)
東京、福岡にて個展
ベトナム日本大使公邸、筑波化学技術博覧会、
愛知芸術文化センター、横浜市中央図書館、
彩の国さいたま芸術劇場に作品設置

■コメント

自然をイメージするような形、人の手になる
構築物のような形態、それらが生み出す直径
30cmのゆるやかな局面上の広く大きな空間
と世界。



作品名 **球形の地平**
Abohe the global horizon

寸法 30(幅)×30(奥)×30(高さ)cm
展示場所 文化の家

■コメント

円という完結した形に量感を与え、それを
斜にずらす事により奥行きのある構造的な
形にし、そこに自然物をイメージする形をそえる。
小さな球形上に、非日常的な空間が生まれる。



作品名 **球形の地平**
Abohe the global horizon

寸法 30(幅)×30(奥)×30(高さ)cm
展示場所 文化の家

■コメント

少しねじれた四角い塔のような形。そばに
ある樹のような形がその大きさをイメージさせ、
この球形の円盤上に入れたらどんな世界が
広がるのだろうか。



作品名 **球形の地平**
Abohe the global horizon

寸法 30(幅)×30(奥)×30(高さ)cm
展示場所 文化の家

■コメント

量感があり、黒い金属で覆われた閉じた建
築物のような形。中に入れるのか、中にはど
のような空間があるのか、それとも何も無いの
か、小さな球形上に置かれた小さな疑問。



作品名 **黒い形**
Black Shape

作者 伊藤 創 ITO Hajimu
寸法 65(幅)×26(奥)×23(高さ)cm
展示場所 文化の家

■作家歴

1959長久手町生まれ
メキシコオアハカ州立自治大学に学ぶ
米国ニューオリンズ市アトリエナポリ、名古屋
日動画廊等にて個展

■コメント

祝福を受けて、
この世に生を受けたばかりの新しい命
けがれのない、ひずみのない命

もてるかぎりのやさしさで、
君をそっと包みこもう
君をうしろから見守ろう
君のために祈ろう

すきま風には道を譲り、暴風には体を張ろう
君が人間になる日まで



作品名 **四季 (シリーズ)**

作者 糸野 憲治郎 KUMENO Kenjiro
寸法 直径80cm
展示場所 中央図書館

■作家歴

1948愛媛県生まれ
愛知県立芸術大学大学院研修科終了
愛知県立美術館、芸術創造センターほか
一宮、四日市にて個展多数

■コメント

この作品は、「四季」をテーマにして表情
豊かな日本の季節の移り変わりを抽象的な
形と色彩で表現した「四季」シリーズのうち
の一つで、目指すのは、「ドライな日本四季」
です。

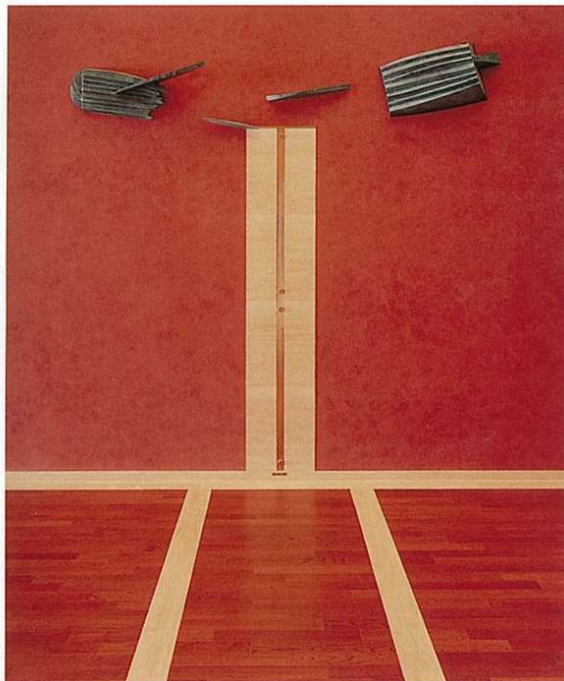


作品名 **Tree-木**

作者 Project-C
(代表者：神田 每実・水津 功)
KANDA Tsunemi・SUIZU Isao
寸法 35(幅)×15(奥)×900(高さ)cm
展示場所 保健センター

■コメント

建築という構造物。そこに創り出された人工
世界。その世界を支える一本の柱。柱という存
在を、単に建築物の構造としてのみにとらえる
のではなく、それ自体の象徴性に着目しオブ
ジェとして独立させる。それによって内部空間
は有機化し、建築は呼吸を開始する。Tree一
枝を張りいつまでも成長し続けようとする一木。
訪問者は、階段を使ってこのTreeをたどり、光
に解放されたこの空間を体験する。



作品名 記憶・大地

a remembrance, the earth

作者 山本 鍾互 YAMAMOTO Shogo

寸法 250(幅)×60(奥)×250(高さ) cm

展示場所 文化の家

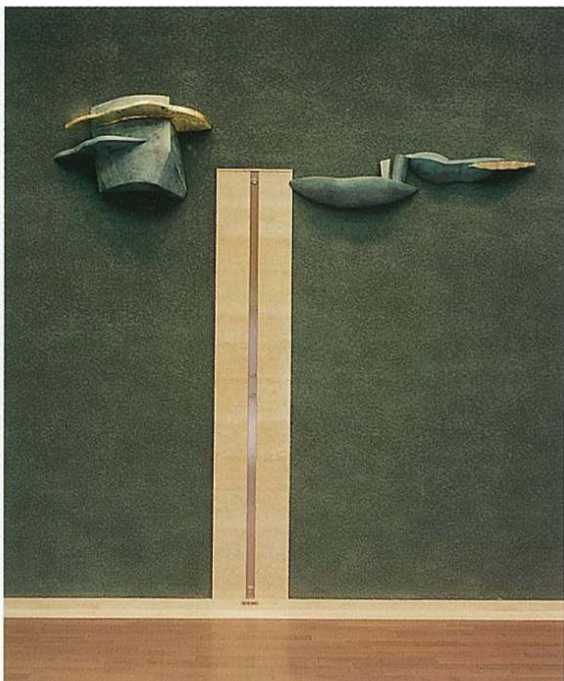
■作家歴

1946埼玉県生まれ
東京芸術大学美術学部工芸科卒業
東京、京都、福岡等にて個展多数
東京都立大学工学部棟アートスクリーン制作
ワールドビジネスガーデンエントランスホール制作
(千葉県幕張新都心)

■コメント

幼年時代からいつも見慣れている風景や形を、ある時以後忘れてしまったり、その地から離れてしまっても、何かのきっかけで鮮明に思い出したりすることがあります。それは、音や香りについても同様で、一種の心の安定を求める自然な働きでしょう。

森のホールに来るとき、何かを探して、何かにひかれて来ますか。楽しい空間にただよう、人々の記憶と息づかい。そうしたことを表現しました。



作品名 風・物語り

a wind, the, fable

寸法 280(幅)×24(奥)×60(高さ) cm

展示場所 文化の家

■コメント

たとえば花に吹く風、建物の隅で舞う風…、いろいろな風がどこかに集まってその経験をおしゃべりしたり、歌ったりしているように思えます。目の前にあるものは、いつかそうして全く違うところで、別の形に生まれ変わったりしてゆくことなどあるかもしれない。川のせせらぎは屋根の瓦に、木の葉は鳥の衣装に。

大地は人間の営みをすべて受け入れ、それを見守っている。人は"記憶"ということで歴史をふり返り、"物語"を作り出し、人に伝え、未来を信じて生きる。大地は風を起こし、人は風に吹かれて、夢をかたり続ける…



作品名 うつろひ

UTSUROHI—a moment of movement

作者 宮脇 愛子 MIYAWAKI Aiko

寸法 500(幅)×500(奥)×200(高さ) cm

展示場所 文化の家

■作家歴

現代日本彫刻展(北九州市立美術館賞)
ヘンリー・ムーア大賞展(特別優秀賞)
東京野外現代彫刻展(東京都知事賞)
ほか、国内外で個展・グループ展多数

■コメント

この作品について忘れることのできないのが、長久手町の小鳥である。数人で作業をし、その設置がほとんど終わり、仕上がったな、とほっとした瞬間に、ワイヤーに小鳥がとまって、そのゆらゆらしたゆらぎを楽しんでいるではありませんか。あの鳥はどこから眺めていたのでしょうか。



作品名 **airness**
 作者 伊井 伸 II Shin
 寸法 500(幅)×100(奥)×140(高さ)cm
 展示場所 文化の家

■作家歴

1948静岡県生まれ
 名古屋駅前、愛知芸術文化センター、
 NHK名古屋放送ビルに作品設置
 名古屋大学工学部建築学科非常勤講師
 現在 ㈱都市造形研究所代表取締役

■コメント

この作品は、ステンレスフレームによって組み立てられたオブジェである。軸線を強調することで、軽やかさとスピード感を演出させている。また、オブジェの総体として、重力から軽やかに逸脱していくことで、空間をかるやかに演出します。



作品名 **N・M・R**
 作者 佐山 慎英
 寸法 399(幅)×65(奥)×80(高さ)cm 4基
 展示場所 文化の家

■作家歴

1955静岡県生まれ
 日本建築学会賞
 サインデザイン奨励賞
 日本芸術院賞
 85～91黒川紀章都市建築設計事務所勤務
 現在 ㈱都市建築研究所代表取締役

■コメント

この作品は、スチールプレートを素材とし、建物と周辺との空間を区切る役割をします。



作品名 **AI Mg-GATE IV**
 作者 吉村 寿夫 YOSHIMURA Hisao
 寸法 130(幅)×70(奥)×200(高さ)cm
 展示場所 桧ヶ根公園

■作家歴

1948愛知県生まれ
 愛知県立芸術大学研修生修了
 三重県展(最優秀賞)
 三重県文化奨励賞
 現在 国画会会員、暁学園短期大学助教授

■コメント

心象風景を造形、具体化した彫刻作品である。外形のドーム形態は、安定と安らぎを表現、内形の鋭角形態と黒御影石とワイヤーの構成は、不安と悩みを表現、そうした対峙の形態と、人間の心の喜怒哀楽を表現したオブジェである。素材は、アルミヒドロ合金鑄造、黒御影石、ワイヤー。



作品名 **キュービクーライン**
 作者 吉見 岳洋 YOSHIMI Takehiro
 神田 每実 KANDA Tsunemi
 寸法 80(幅)×80(奥)×80(高さ)cm
 展示場所 町道石田・杵ヶ池線
 (にぎわいのステージ)

■コメント
 この作品は、原材料として準備した花崗岩の立方体(キュービク)に対し、線(ライン)を引く(ー)行為によって形作られている。引く(ー)行為を付加(+されることから始まったこの形は、風景の片隅から、我々の中に何を刻み続けるのか。キュービクーライン、、、有機が生まれる。



作品名 **きすな**
 作者 小池 郁男 KOIKE Ikuo
 大塚 道男 OTSUKA Michio
 寸法 100(幅)×100(奥)×160(高さ)cm
 展示場所 町道石田・杵ヶ池線
 (にぎわいのステージ)

■コメント
 この、流動する時代の只中で、人々は抱えきれない程の不安に揺らぎ苦悩している。そんな中であって、我々を支えてくれているのは、人と人との絆である親子、夫と妻、男と女、老人と若者、隣人とわたし。支えあい、ほほえみあう、親と子、そんなイメージを一個の石材により掘り出し表現してみた。



作品名 **風のなかに**
 作者 小池 郁男 KOIKE Ikuo
 寸法 50(幅)×50(奥)×180(高さ)cm
 展示場所 町道石田・杵ヶ池線
 (にぎわいのステージ)

■コメント
 120度は心理的に安定した角度といわれる。120度に切られたシャープな面と、丸みを持たせた重量感のある面とを造形化し、歩道側の建物(静)と車道側の車(動)を相対するフォルムとして一体化する。中央部に服らみを持たせ、緊張した面に柔らかさを与え、更にその部分にわんぐりとした凹みと二つの孔をあけることによって通過する風と光を感じさせる。



作品名 **空**
 作者 神田 每実 KANDA Tsunemi
 寸法 60(幅)×60(奥)×210(高さ)cm
 展示場所 町道石田・杵ヶ池線
 (にぎわいのステージ)

■作家歴
 1958島根県生まれ
 第68回二科展 特選
 第84回二科展 安田火災美術財団奨励賞
 現在 愛知県立芸術大学彫刻専攻助手

■コメント
 自然界のなかで最も強い存在の石。人間が作り出した素材の中で、最も強い金属。それらの素材に有機的な面や無機的な面を与え、構成し、「調和」を生み出す。それ自体が独立した風景としての。



作品名 **記憶された樹**
 作者 大塚 道男 OTSUKA Michio
 寸法 100(幅)×50(奥)×150(高さ)cm
 展示場所 町道石田・秋ヶ池線
 (にぎわいのステージ)

■コメント
 この風景をおぼろげながらに覚えている。木々の繁ったゆるやかな起伏をもった丘のようだった。いつの頃からか電柱が整然と並ぶ路が出来、人々の出会いの通りとなった。私の記憶の中の樹をここに創りたく思った。



作品名 **石偶より**
 作者 吉見 岳洋 YOSHIMI Takehiro
 寸法 70(幅)×60(奥)×180(高さ)cm
 展示場所 町道石田・秋ヶ池線
 (にぎわいのステージ)

■作家歴
 1959熊本生まれ
 愛知県立芸術大学研修科修了
 86~88愛知県立芸術大学非常勤講師
 中日展(大賞) 熊本県美術協会展(大賞)

■コメント
 この作品は、具体的な固有の存在ではなく、山や空、植物や雲などが人とかさなったイメージです。作品独自が直接的に主張するのではなく、設置された場所に時をかけてなじみ、観る人それぞれの感じ方により街の風景として、人々のおおらかなイメージの始まりとなることを願います。



作品名 **M-85**
 作者 池松 一隆 IKEMATSU Kazutaka
 寸法 40(幅)×40(奥)×160(高さ)cm
 展示場所 秋ヶ池体育館

■作家歴
 現在 福岡教育大学教授

■コメント
 その時その時を生き、感じるままに表現して今日に至りました。この彫刻は1985年5月に制作したもので、作品のタイトルは制作年月を表しています。時を経て、我が人生の軌跡とも言える彫刻を見ると、自分の作品でありながら不思議な感覚を覚えます。彫刻、やはり一人歩きをしているようです。



作品名 **AMORE 愛**
 AMORE
 作者 佐藤 勲 SATO Isao
 寸法 94(幅)×39(奥)×33(高さ)cm
 展示場所 長久手町立長久手中学校

■コメント
 春・夏・秋・冬、それぞれの季節を造形化した樹シリーズ「夏」と題する作品の一つである。人間の感情を情緒的に促え、擬人化した樹の中に表現したもので人の愛がテーマである。



作品名 風からのメッセージ
A Message from the Wind

作者 中村 明二 NAKAMURA Meiji
寸法 105(幅)×40(奥)×35(高さ)cm
展示場所 東浦公園

■作家歴

1948茨城県生まれ
愛知県立芸術大学大学院研修科修了
愛知県立芸術大学非常勤講師(～1987)
名古屋、各務原、水戸、ひたちなか市の公共
施設に作品設置

■コメント

「風」風は何かを運んで来る。そして何かを語り掛けてくる。季節の変わり目には、新しい香りや希望、四季を演出する風。優しく頬を撫でられた時、強い力で体を押された時、風はすぐ脇に居ます。風を全身で受け、顔で頬で耳で風からのメッセージを聞いて下さい。



作品名 水面 Level

寸法 80(幅)×80(奥)×75(高さ)cm(1パーツ)
作者 大岩 久乃 OIWA Hisano
展示場所 原邸公園

■作家歴

1972熊本県生まれ
愛知県立芸術大学大学院彫刻研究科修了
栃木県那須ヶ原彫刻シンポジウム参加
東京、名古屋で個展開催

■コメント

公園の導入口として、流れ・広がりを感じる存在となるように自然素材の石を使って公園に一筋の流れをつくります。この作品は香流川のゆるやかな流れをイメージしました。自由に触れ、慣れ親しめる存在となることを期待します。



作品名 偶
icon

作者 郷 晃 GO Akira
寸法 60(幅)×60(奥)×180(高さ)cm
展示場所 血の池公園

■作家歴

1955岐阜市生まれ
愛知県立芸術大学大学院研修生修了
国画会(新海賞)(野島賞)
日本各地の展覧会に出品
現在 新潟大学教育人間学部芸術環境講座教授

■コメント

この作品の制作は、エジプト旅行での印象がきっかけでした。エジプトの神殿に残る数多くの偶像は、ほとんど全てが顔を荒々しく削り取られています。顔の破壊は、偶像崇拝を否定するイスラム教徒によってであるとの説らしいのですが、私は本来あったであろう様々な顔を想像しながら、それぞれの顔のない偶像にあてはめました。

私が偶像らしき形の上部に顔を造らず、のっぺらぼうにしたのは、安易に造ってしまうよりは、...という思いがあるからです。



作品名 生一輪廻(せいーりんね)
SEI-transmigration of the soul

作者 松延 佳子(旧姓藤垣)
MATSUNOBU Keiko
寸法 180(幅)×90(奥)×100(高さ)cm
展示場所 杖ヶ池体育館

■作家歴

1989愛知県立大学大学院美術研究科
彫刻専攻 卒業

■コメント

長い間繰り返されて来た生命の伝達は、これからも限り無く続いて行く。



作品名 **大地から**
Daichi-kara
作者 木方 立樹 KIKATA Tachiki
寸法 230(幅)×70(奥)×130(高さ)cm
展示場所 長久手町立長久手中学校

■作家歴
1971名古屋生まれ
愛知県立芸術大学卒業
卒業制作(桑原賞) 新制作展入選
現在 愛知県立旭ヶ丘高等学校 非常勤講師
河合塾美術研究所講師

■コメント
この作品は大地から湧き出てくる力をイメージして制作しました。私は彫刻作品という「もの」をつくる彫刻家ですが、「もの」のみをつくるのではなく、その「もの」によって生まれる「こと」、或いはそのものを生み出した「こと」を造りたいと考えています。「もの」から「こと」が生まれる、「こと」が「もの」を生み出すその際のなんらかの力のみが唯一本当と思えるのです。



作品名 **石の華**
作者 大塚 道男 OTSUKA Michio
寸法 50(幅)×50(奥)×120(高さ)cm
展示場所 長久手町立長久手中学校

■作家歴
1954東京生まれ
愛知県立芸術大学大学院美術研究科研修生修了
中部国展(中部国画賞)(新人賞)(奨励賞)
国画会(新人賞) 国画会会友
現在 愛知県立芸術大学彫刻専攻講師

■コメント
南に面した広い校庭で光をとらえることのできる形を制作してみました。形の揺れが光と影をかもしだしてくれることを願いつつ。



作品名 **憩い**
作者 小池 郁男 KOIKE Ikuo
寸法 150(幅)×46(奥)×150(高さ)cm
展示場所 長久手町立長久手中学校

■作家歴
1935長野県上田市生まれ
東京藝術大学美術学部彫刻専攻科修了
愛知県芸術選奨文化賞
一陽会(一陽賞)(オペリスク賞)(第30回記念会員賞)
現在 愛知県立芸術大学名誉教授

■コメント
吹く風も爽やかに心に響く。広々とした青空の下、楽しく遊び、語らいながら憩うひとときの風情を三つの石で構成したもの。石を大きく削りこみ、穴を開けることによって重量感をなくし、軽快なフォルムで擬人化した作品である。